

第1学年社会科学習指導案

1 日 時 11月25日（水曜日） 第5時限

2 学 級 1年1組（18名）

3 教材名 モンゴルの襲来と日本

4 学習目標

元寇、南北朝の成立と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的役割などを基に武家政治の展開とともに東アジアの世界との密接な関わりが見られたことを理解する。また、東アジアにおける交流に着目して、地理的な確認をしたり、事象を相互に関連付けたりすることを通して、中世社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。

5 学習計画 総時間5時間

- (1) モンゴルの襲来と日本・・・・・・・・・・2時間（本時 1／2）
- (2) 南北朝の動乱と室町幕府・・・・・・・・・・1時間
- (3) 東アジアとの交流・・・・・・・・・・1時間
- (4) 産業の発達と民衆の生活・・・・・・・・・・1時間

6 本時の学習

(1) 主 眼

資料を読み取る活動を通して、モンゴル帝国の拡大と交通網の整備によりユーラシア大陸が結び付き、人とモノの交流が活発化したことに気づき、記述できる。

(2) 研究主題との関連

ペア活動を授業の中に取り入れ、互いに確認しあうことで、資料を読み取ることが「できる」ことを実感し、主体的に学ぶ意欲を高める。また、グループでの話し合い活動の中で、他の人の意見を尊重する豊かな心を育むとともに、学習内容をより深く「わかる」ための足掛かりとしたい。

(3) 学習の展開

学習内容及び学習活動	教師の手だてと評価 (★)
① 年表をもとにした教員の解説により、元寇（文永の役、弘安の役）についての基礎的な内容を復習する。 ② 元寇がおこった背景についてユーラシア大陸をもとに考える。	① 年表を用いて、元寇について基礎的な内容を理解させる。 ② 元寇を日本国内のことだけとして捉えるのではなく、大きな視点で考えていくことを確認する。
めあて 元寇が起きた13世紀にユーラシア大陸でどんなことが起こったかを考え、書くことができる。	
③ モンゴル帝国の拡大によって、どんなことが起こったか資料をもとに個人で考え、記述する。 ④ ペア活動を行い、意見を共有する。	③ 記述することが難しい生徒に資料のタイトルに着目するよう助言する。 ④ ペア活動を行うことで考えを共有する。人とモノの交流が活発化したことを確認する。
なぜ、モンゴル帝国は人とモノの交流を活発化させることができたのでしょうか。	
⑤ 個人で考えた後、グループで話し合う。グループで話し合っ、話題に上がったこと、疑問に思ったことをボードに書く。	⑤ 話し合い活動が深まっていないグループに対して助言を行う。ボードに書かれたことを共有し、交通網の発達や商人を利用したことが出ていれば、その意見をもとにして、ジャムチ(駅伝制)や南宋の海のネットワークについて説明する。
予想される生徒の反応 ☐ 交通網を整備したから。 ☐ 海と陸を両方支配したから。 ☐ 商人を利用したから。 ☐ 遊牧民族なので馬を使ったから。 ☐ たくさんの国を侵略したから。	
⑥ 教員の発問に答えるかたちで、モンゴル帝国の陸と海のネットワークづくりについて理解する。 ⑦ 13世紀、モンゴル帝国の拡大によってユーラシア大陸がどうなったかについて、ワークシートに記述する。	⑥ 騎馬民族であるモンゴル帝国が海のネットワークを獲得するためにどのような方法をとったのかを問ひかけ、理解させる。 ★モンゴル帝国が交通網を整備したことにより、ユーラシア大陸が結びつき、人とモノの交流が活発化したことに気づき、表現・記述できたか。 (思考・表現：ワークシート，記述)
⑧ 本時をふりかえり、本時の授業で学んだことを記述する。	⑧ 元寇が日本に与えた影響について次時で考えていくことを伝える。